

平成27年度学力テスト結果

尾道市立土堂小学校

1 広島県「基礎・基本」定着状況調査(通過率) ー第5学年ー

教科全体の通過率(国語科) (%)

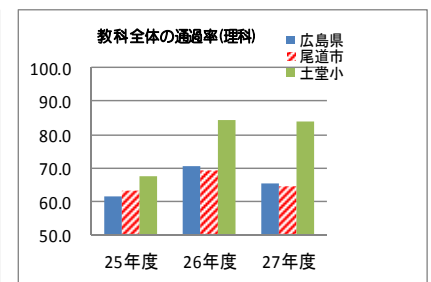
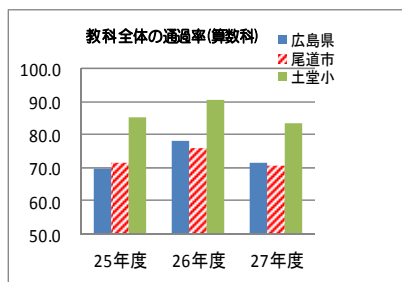
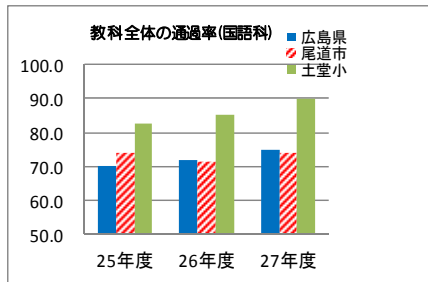
	25年度	26年度	27年度
広島県	70.1	71.8	74.7
尾道市	73.9	71.2	73.9
<b>土堂小</b>	<b>82.6</b>	<b>85.1</b>	<b>89.8</b>
県との差	+12.5	+13.3	+15.1

教科全体の通過率(算数科) (%)

	25年度	26年度	27年度
広島県	69.8	78.0	71.6
尾道市	71.5	76.1	70.8
<b>土堂小</b>	<b>85.3</b>	<b>90.7</b>	<b>83.5</b>
県との差	+15.5	+12.7	+11.9

教科全体の通過率(理科) (%)

	25年度	26年度	27年度
広島県	61.3	70.6	65.3
尾道市	63.3	69.2	64.5
<b>土堂小</b>	<b>67.6</b>	<b>84.2</b>	<b>83.8</b>
県との差	+6.3	+13.6	+18.5



「基礎・基本」定着状況調査について

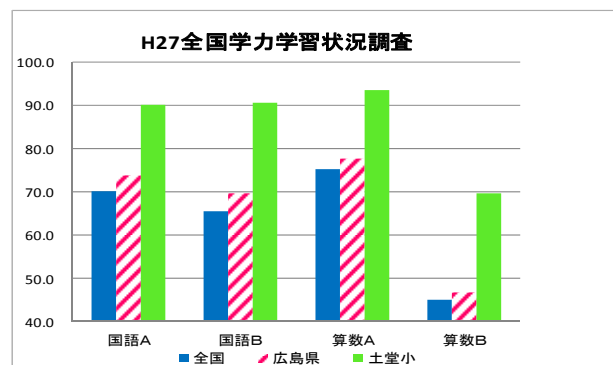
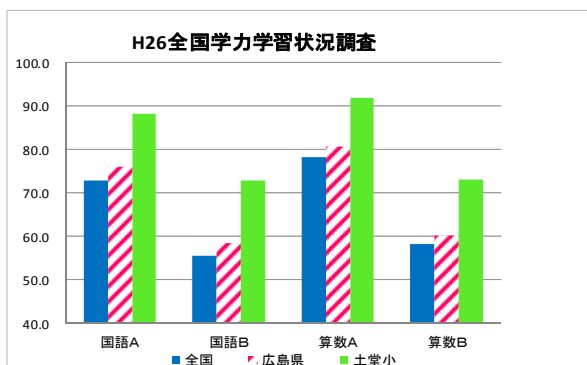
3教科ともに広島県の通過率よりも高く、基礎的・基本的な学習内容は定着していると捉えている。

教科	課題	今後の取組
国語	資料から情報を読み取り、その情報を活用して、文章を書くこと。	示されている条件を読み、それをもとに文章を書く活動に取り組む。
算数	図形の性質を理解することや三角形の作図、折れ線グラフと棒グラフの特徴や傾向を読み取ること。	問題から読み取ったことや考えたことを図や表、式、言葉で表現し、説明するなどの指導の工夫を行う。
理科	空気の温まり方やその動きについて、学習したことから、生活の中での出来事と結び付いていないこと。	学習したことが、日常生活(例えば3年生「磁石とリニアモーターカー」や4年生「鉄道のレール」など)に関連しているということに気付かせる指導を行う。

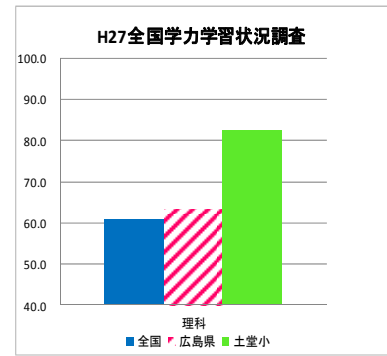
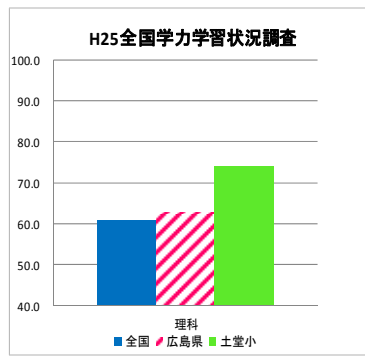
2 全国学力・学習状況調査(通過率) ー第6学年ー

	26年度			
	国語A	国語B	算数A	算数B
全国	72.9	55.5	78.1	58.2
広島県	75.9	58.3	80.7	60.1
<b>土堂小</b>	<b>88.3</b>	<b>72.9</b>	<b>91.9</b>	<b>73.1</b>
全国との差	+15.4	+17.4	+13.8	+14.9

	27年度			
	国語A	国語B	算数A	算数B
全国	70.0	65.4	75.2	45.0
広島県	73.8	69.7	77.7	46.7
<b>土堂小</b>	<b>90.1</b>	<b>90.6</b>	<b>93.6</b>	<b>69.6</b>
全国との差	+20.1	+25.2	+18.4	+24.6



	理 科	
	25年度	27年度
全国	60.9	60.8
広島県	62.9	63.2
土堂小	73.9	82.5
全国との差	+13.0	+21.7



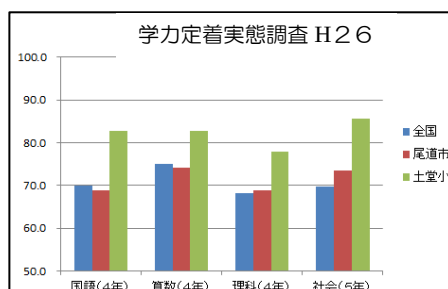
### 全国学力・学習状況調査について

主として「知識」に関する問題（国語 A・算数 A）、主として「活用」に関する問題（国語 B・算数 B）、全てにおいて全国の平均通過率よりも高く、「知識・活用」とともに定着が図られていると捉えている。

教科	課題	今後の取組
国語	目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用したり、複数の内容を関係付けたりしながら、自分の考えを書くこと。	コラム、随筆、投書などをはじめとする、様々な形態の文章に触れさせることや、読み手に伝えたいことの中心を明確にした上で、自分で調べた内容や関係者に取材した事柄の中から、取捨選択し、伝えたいことが読み手に伝わるように整理して、記事を書く指導を行う。
算数	基準量，比較量，割合の関係を正しくとらえること。	示された情報から基準量と比較量，割合の関係を正しくとらえ，基準量を正しく求めることができるように指導する。例えば，増量前の量を口として，20%増量した後の量が480mlであることを数直線に表すことが考えられる。図や数直線に表すことを通して，比較量である増量後の量は，基準量となる増量前の量の120%に当たる。というように数量の関係を整理してとらえた上で基準量を求めることができるようにする。
理科	予想が一致した場合に，得られる結果を見通して実験を構想できたり，水の温まり方を考察するために，実験結果をもとに自分の考えを改善したりすること。	実験結果を見通して，児童自ら実験を計画できるようにする指導を行う。 生活科から意図的に生活経験をさせたり，3年生以上では，器具に触れ操作体験を通して理解させたりする。また，観察する視点を明確にして，継続した観察活動を行う。

3 学力定着実態調査(通過率) —第4学年(国・算・理), 第5学年(社)—

	全 国	尾道市	土堂小	全国との差
第4学年 国語	70.0	68.8	82.7	+12.7
算数	75.0	74.2	82.7	+7.7
理科	68.1	68.9	77.9	+9.8
第5学年 社会	69.8	73.6	85.6	+15.8



学力定着実態調査について

4教科ともに全国の通過率よりも高く、基礎的・基本的な学習内容は定着していると捉えています。課題として、国語科では目的や必要に応じて、文章の内容を読み取ること、算数科では、ある時刻から一定時間が経過した時刻を求めて、決まった時刻までに3つの出し物をまわれるかを判断すること、理科では、日なたの地面の温度が、日かげの地面の温度より高くなる理由を説明すること、社会では、資料(地図)をもとに考察し、その理由を説明することがあげられます。

今後の取組として、国語科では、主に、字数を制限する、キーワードを使う、自分の考えを書くなど、条件を与えて書く活動に取り組みます。算数科では、主に、問題から読み取ったことや考えたことを図や表、式、言葉で表現し、説明するなどの指導の工夫を行います。社会科では、主に、複数の資料を提示し、読み取ったことを関連付けて考察させたり、自分の考えを説明させたりする授業づくりを行います。理科では、目的意識をもった観察・実験を行い、考察したことを説明させるなどの指導の工夫を行います。